

中学校 英語

中学校英語「話すこと」領域における
会話を継続し発展させていく能力を高める指導法の研究
－ALT と協同での一問三答形式Q&A 指導とフィードバックの工夫を通して－

八戸市立白銀中学校 教諭 西村 章華

要 旨

本研究は、会話を継続し発展させていく能力を高める指導の在り方をALT（外国語指導助手）（以下、ALT とする）と協同での一問三答形式Q&A 指導とフィードバックの工夫を通して探ったものである。フィードバックの工夫として、リスニングメモと録音記録を用いて、表現したい語句を生徒が辞書で調べたり、ALT に質問したりしながらクラス全体で学びを深めた。検証の結果即興的な会話のやり取りの回数が増加し、会話を継続し発展させていくことができた。

キーワード：中学校 英語 会話 ALT 一問三答 フィードバック

I 主題設定の理由

文部科学省では、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、新たな英語教育が本格展開できるように、2014年度から逐次改革を推進している。文部科学省「「英語が使える日本人」の育成のための行動計画」には、「「英語が使える」ようになるためには、文法や語彙などについての知識を持っているというだけではなく、実際にコミュニケーションを目的として英語を運用する能力が必要である」、「教員は、普段から主に英語で授業を展開しながら、生徒や学生が英語でコミュニケーションを行う場面を多く設定することが重要である」、「ALT（外国語指導助手）や特別非常勤講師制度などを活用して少人数指導や習熟度別指導などを積極的に取り入れるとともに、先進的な英語教育を推進し、優れた授業実践を普及することが求められる」と提言されている。

その一方で、文部科学省「「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想の策定について」では、「現状では、日本人の多くが、英語力が十分でないために、外国人との交流において制限を受けたり、適切な評価が得られないといった事態も生じている」と示されている。本校の生徒の実態を見ても、問答が単発的なものになる傾向があり、質問や説明を加えて話せないことが多い。

中学校学習指導要領解説 外国語編（平成20年9月）によると「2 内容 (1)言語活動 (イ)言語活動の取扱い イ 話すこと」において「(エ)つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること」の指導事項が示されている。この指導事項は「紋切り型の応答や一往復だけの言葉のやりとりで終わってしまうのではなく、必要な表現や技法を用いて会話を継続・発展させることを示している」と記されている。

そこで、本研究では、1年生を対象にALT と協同で、一問三答形式Q&A 指導をし、他のペアが書き取ったリスニングメモと録音記録を用いてフィードバックをすることで、会話を継続し発展させていけるのではないかと考え、本主題を設定した。

II 研究目標

会話を継続し発展させていく能力を高めるためには、ALT と協同での一問三答形式Q&A 指導をし、他のペアが書き取ったリスニングメモと録音記録を用いてフィードバックさせることが有効であることを、実践を通して明らかにする。

III 研究仮説

ALT と協同で、次のような手立てを講じることによって、会話を継続し発展させていく能力を高められる

であろう。

- ① Yes/No疑問文と疑問詞から始まる疑問文の質問文、依頼を表す肯定文を与える。一問一答形式Q&A 指導を行う。
- ② 上記①と異なる質問文と肯定文を与え、一問二答形式、一問三答形式の順にQ&A 指導を行う。
- ③ 上記①、②と同じ質問文と依頼を表す肯定文を与える。一問三答形式Q&A 指導とフィードバックの工夫を行う。
- ④ 上記①、②と異なる質問文と依頼を表す肯定文を与える。一問三答形式Q&A 指導とフィードバックの工夫を行う。

IV 研究の実際とその考察

1 研究における基本的な考え方

(1) 会話を継続し発展させる能力について

本研究では、会話のやり取りの中で、一往復だけの言葉のやり取りで終わらず、質問や説明を加えて話せる力を、会話を継続し発展させる能力と捉える。

(2) 会話を継続させるための大切な要素

太田（2003）によると、会話を継続させるための活動を行う際に大切なことは「①クラス全体で会話の続け方を考える②教科書の例を利用する③先生から生徒が話す際に参考になるモデルを示す④生徒が表現したい語（語句）、文を示す⑤うまくいった友達の例から学ぶ⑥ペアを変えながら、練習を繰り返す」の六つであると挙げている。

これらの六つの要素を基に、本研究では、二つのペア内でのフィードバックからクラス全体のフィードバックにもっていくことに重点を置きたいため、次の六つの要素で、ALT と協同での一問三答形式のQ&A 指導とフィードバックを行う。①二つのペアで成り立つグループ内で会話の続け方を考えた後、クラス全体に掲示する。②必ず三答形式で答える。③教科書の例を利用する。④表現したい語句を生徒が辞書で調べたり、ALT に英語で尋ねたりする。⑤更に会話が継続し発展するような表現を生徒に考えさせながら、ALT と協同で示す。⑥他の生徒の成功例や失敗例を参考にする。

(3) 実験群26名と統制群26名の生徒の実態

ア 5月に実施したアンケートの比較から

図1は、好きな活動について比較したものである。実験群について見ると「聞く」活動が好きな生徒は10名、「話す」活動が好きな生徒は6名である。一方、統制群は「聞く」活動が好きな生徒は実験群と同じく10名、「話す」活動が好きな生徒は13名である。「聞く」活動が好きなことに差はないが、「話す」活動が好きなことについては統制群の方が多ことが分かる。

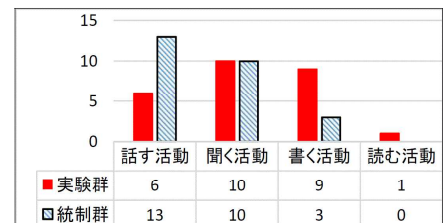


図1 好きな活動

イ 定期考査での比較から

一次考査・二次考査を t 検定で比較した結果、有意な差は認められなかった。

ウ 語彙力テストの比較から

青森県版英単語集から抜粋した単語 100語を使って、語彙力テストを行った。表1がその結果である。解けた数が100問中30問以下を語彙力レベルC、31問から59問を語彙力レベルB、60問以上を語彙力レベルAとした。表1から分かるように、両者の語彙力にはほぼ差がないと分かった。

表1 語彙力テストの結果

	レベルA	レベルB	レベルC
実験群	0	14	12
統制群	2	10	14

2 研究内容

(1) ALT と協同で行うことについて

「英語が使える日本人」の育成のための行動計画に、「ネイティブスピーカーの活用は、生きた英語を学ぶ貴重な機会であるとともに、外国語や外国文化等に親しみ、自分の英語がネイティブスピーカーに通じたという喜びと英語学習へのモチベーション（動機づけ）を高めるなどの意味で、大きな意義を有する。さらに、海外生活経験等により英語に堪能な社会人など地域の優れた人材の協力を得ることは、

英語の指導体制の充実を図る観点のみならず、社会の中での英語の必要性や、英語ができることによって広がる世界などについて、子どもたちが直接学ぶ貴重な機会となる観点からも、大きな意味を有する」と示されている。

本研究では、表現したい語句を生徒が辞書で調べたり、ALT に尋ねたりする。このことが生きた英語を学ぶ絶好の機会であり、生徒の話すことにおける基礎的な力を高めると考えた。また、自分の英語がネイティブスピーカーにうまく通じなかった場合でも、生徒同士あるいは日本人教員が、通じるためのヒントを英語で与えることによって、会話を継続し発展させる能力を高めることができると考えた。

(2) 指導計画

指導計画の中で、実験群をA群、統制群をB群と表記する。A群は、一問一答形式Q&A 指導から一問二答形式、一問三答形式と順を追ってQ&A 指導を行い、フィードバックの工夫を行った。B群は一問一答形式Q&A 指導とフィードバックの工夫のみを行った。それが表2である。

表2 検証にかかわる指導計画

時	群	質問	研究仮説の手立て	検証にかかわる指導内容	会話形態
1	A	(3)ア 第1時	【手立て①】	帯活動10分 一問一答形式Q&A指導	クラス全体に対して質疑応答する。
	B		【手立て①】	帯活動10分 一問一答形式Q&A指導	クラス全体に対して質疑応答する。
2	A	(3)ア 第2時	【手立て①】	帯活動10分 一問一答形式Q&A指導	ペアごとに質疑応答する。
	B		【手立て①】	帯活動10分 一問一答形式Q&A指導	ペアごとに質疑応答する。
3	A	(4)ア 第3時		事前調査 一問一答形式Q&A指導とフィードバックの工夫	二つのペアのグループ1～7に分ける。一つ目のペアから質疑応答する。
	B			事前調査 一問一答形式Q&A指導とフィードバックの工夫	二つのペアのグループ1～7に分ける。一つ目のペアから質疑応答する。
4	A	(3)イ 第4時	【手立て②】	手立てに含めない表現プリントの提示 帯活動10分 一問二答形式Q&A指導	一問二答形式Q&A指導の模範例を見せてから、クラス全体に対して質疑応答する。
	B		【手立て①】	手立てに含めない表現プリントの提示 帯活動10分 一問一答形式Q&A指導	ペアごとに質疑応答する。
5	A	(3)イ 第5時	【手立て②】	帯活動10分 一問二答形式Q&A指導	ペアごとに質疑応答する。
	B		【手立て①】	帯活動10分 一問一答形式Q&A指導	ペアごとに質疑応答する。
6	A	(4)ア 第6時		中間調査 一問二答形式Q&A指導とフィードバックの工夫	二つのペアのグループ1～7に分ける。一つ目のペアから質疑応答する。
	B			中間調査 一問一答形式Q&A指導とフィードバックの工夫	二つのペアのグループ1～7に分ける。一つ目のペアから質疑応答する。
7	A	(3)ウ 第7時	【手立て②】	帯活動10分 一問三答形式Q&A指導	一問三答形式Q&A指導の模範例を見せてから、ALTと協同で、一人ずつに質疑応答する。
	B		【手立て①】	帯活動10分 一問一答形式Q&A指導	ALTと協同で、一人ずつに質疑応答する。
8	A	(4)ア 第8時	【手立て③】	検証直前調査 一問三答形式Q&A指導とフィードバックの工夫	上記第3、6時で録音した生徒の応答を使い、クラス全体でフィードバックを行う。
	B		【手立て①】	検証直前調査 一問一答形式Q&A指導とフィードバックの工夫	上記第3、6時で録音した生徒の応答を使い、クラス全体でフィードバックを行う。
9	A	(4)イ 第9時	【手立て④】	検証 一問三答形式Q&A指導とフィードバックの工夫	二つのペアのグループ1～7に分ける。一つ目のペアから質疑応答する。
	B		【手立て①】	検証 一問一答形式Q&A指導とフィードバックの工夫	二つのペアのグループ1～7に分ける。一つ目のペアから質疑応答する。
10	A	(4)ウ 第10時		事後調査 一問三答形式Q&A指導	二つのペアのグループ1～7に分ける。一つ目のペアから質疑応答する。
	B			事後調査 一問三答形式Q&A指導	二つのペアのグループ1～7に分ける。一つ目のペアから質疑応答する。

(3) 帯活動でのQ&A 指導について

帯活動について、松沢（2014）は「短時間継続的に行う投げ込み活動を指す学校英語教育独特のネーミングである」と述べている。また、太田（2012）も「ある一定の期間、授業の一定の時間帯（例、授業の最初の5分間）に行う活動」と定義している。この中で、太田は帯活動を行うに当たって気を付けることとして、次の三つを挙げている。第一に「生徒に活動の目的・意味を話すことも時には必要である」、第二に「生徒の現状を見て「ここが足りない」、「ここを補強したい」、「アドバイスしたい」ということを考える」、第三に「教師としての自分のteachingの現状も振り返る」と述べている。

自身のこれまでの実践における帯活動の一つとして、一問一答形式Q&A 指導がある。しかし、学習が進んでいくにつれ、紋切り型の返答に終始してしまい、会話を継続させることができない現状があった。そのため、本研究では次のように①一問一答形式Q&A 指導、②一問二答形式Q&A 指導、③一問三答形式Q&A 指導と順を追って、応答する数を三つに増やす指導を10分間の帯活動として行った。

ア 帯活動の一问一答形式Q&A 指導で用いた質問

第1時	<Yes/No 疑問文>	Do you know “Frozen”?	Do you like it?
	<疑問詞を用いた疑問文>	What time do you go to bed every night?	What time do you get up every morning?
	<依頼を表す肯定文>	Please tell me about your favorite color.	Please tell me your friend’s name.
第2時	<Yes/No 疑問文>	Do you have any pets?	Do you have any brothers?
	<疑問詞を用いた疑問文>	What kind of sports do you like?	What kind of food do you like?
	<依頼を表す肯定文>	Please tell me about your birthday.	Please tell me about your favorite TV program.

イ 帯活動の一问二答形式Q&A 指導で用いた質問

第4時	<Yes/No 疑問文>	Do you like ramen?	
	<疑問詞を用いた疑問文>	What food do you dislike?	
	<依頼を表す肯定文>	Please tell me about your collections.	
第5時	<Yes/No 疑問文>	Are you good at running?	Are you a good pianist?
	<疑問詞を用いた疑問文>	When is your birthday?	When is the Chorus Contest?
	<依頼を表す肯定文>	Please tell me about your dream.	Please tell me about your favorite person.

ウ 帯活動の一问三答形式Q&A 指導で用いた質問

第7時	<Yes/No 疑問文>	Are you a baseball fan?
	<疑問詞を用いた疑問文>	What do you do in your free time?
	<依頼を表す肯定文>	Please tell me about your favorite word.

(4) 各調査や検証に用いた質問

ア 事前調査, 中間調査, 検証直前調査に用いた質問

第3・6・8時	<Yes/No 疑問文>	Do you like anime?	Do you like Yokai Watch?
	<疑問詞を用いた疑問文>	What kind of books do you like?	What kind of music do you like?
	<依頼を表す肯定文>	Please tell me about your hobby.	Please tell me about your family.

イ 検証に用いた実験群の一问三答形式・統制群の一问一答形式の質問

第9時	<Yes/No 疑問文>	Do you like fruit?	Do you play video games?
	<疑問詞を用いた疑問文>	What do you do in your free time?	Who is your favorite actor?
	<依頼を表す肯定文>	Please tell me about your club.	Please tell me about your favorite songs.

ウ 事後調査に用いた一问三答形式の質問

第10時	<Yes/No 疑問文>	Do you go shopping?	Do you know Nihon Erekiteru Rengo?
	<疑問詞を用いた疑問文>	Where do you want to go in the future?	Which do you prefer, school lunch or bento?
	<依頼を表す肯定文>	Please tell me about your favorite shop.	Please tell me about your favorite character.

(5) 一问三答形式Q&A 指導について

本研究で扱う一问三答形式Q&A 指導とは、最初の質問に対して、肯定文・否定文・疑問文などを組み合わせることで三答形式で答えて会話を続けることである。主語・動詞から成る文、つなぎ言葉を文中に含めて自分の情報を相手に伝えている文、つなぎ言葉のみで会話を発展させる文、質問に答えるために必要な単語のみの発言も三答のうちの一つとする。

(6) 会話をするペア・グループについて

メンバーは毎回替わり、組合せはあらかじめ教員が決めておくことにする。事前の語彙力テストを基にレベル差を極力少なくした。やむを得ず、レベルC同士になっても、互いに話しやすい関係になるように配慮した。これは人間関係によって、会話のやり取りの回数が左右されるのを防ぐためである。また同性と話をする場合、異性と話をする場合によって、やり取りの差が生まれる可能性があることも考慮し、同性ペア・グループと異性ペア・グループとALT とのペア・グループとした。

(7) 両群に与える表現プリントについて

一问一答形式Q&A 指導を行った際、生徒の必要とする表現が類似していた。太田（2003）は「会話を継続するための指導として欠かせないのが「反応する表現、文」をSpeech bubblesを通して教えること」であるとし、「Speech bubblesに使う表現は先生側で与えるのではなく、「生徒たちが使いたいと思っている表現」を与えることが大切です」と述べている。そこで、太田のSpeech bubblesを参考にしながら、生徒の発話の中で生徒が使いたいと思っている表現を集め、ALT と協同で「こんな時どう言う？」という表現プリントを作成した。事前調査後の帯活動で、このプリントを両群に与えた。1年生が知っている語彙や会話表現には限りがあるため、疑問詞の学習をしながら、相手に質問し、会話を継続し発展させるために使える表現であることを確認した。したがって、この表現プリントは本研究の手立てであるフィードバックの工夫には含めないものとする。

(8) フィードバックの工夫について

フィードバックは二つのペアで行う。図2にあるように、グループ1～3は二つの同性ペアで、グループ4～6は二つの異性ペア、グループ7はALT とペアになっている。フィードバックの工夫は次のとおりである。

G 1～G 3	A 男子-B 男子	C 女子-D 女子
G 4～G 6	A 男子-B 女子	C 男子-D 女子
G 7	A 男子-B ALT	C 女子-B ALT

図2 フィードバックを行うペア・グループ

- ア 一つ目のペアが会話している間、もう一つのペアはその会話を聞き、リスニングメモとして、英語または日本語でキーワードを書き取る。
- イ 聞き取りをしている間、英語で話したいのに、話し方が分からなかった語や表現をマグネットシートに書き取らせ、それを黒板に貼らせる。
- ウ 会話終了後、二つのペアは、キーワードが書かれたリスニングメモと録音記録を用いて、会話の内容を英文で書く。録音機器にイヤホンを付け、グループで一緒に聞く。
- エ 表現したい語句を生徒に辞書で調べさせたり、ALT に尋ねさせたりする。授業時間内に、マグネットシートやリスニングメモに挙げられた語句を掲示する。
- オ 次時の帯活動で、生徒の成功例や失敗例に工夫を加えたものを掲示し、クラス全体で会話の続け方を考える。

3 検証方法

(1) 検証内容

Yes/No疑問文と疑問詞から始まる疑問文の質問文、依頼を表す肯定文を与え、一問一答形式Q&A 指導を行う。その後、会話を継続し発展させるために一問二答形式、一問三答形式と順を追ってQ&A 指導する。研究仮説の手立て①～③までを全て講じた実験群26名と、手立て①のみを講じた統制群26名を比較して、一問三答形式Q&A 指導と他のペアが書き取ったリスニングメモと録音記録を用いて、フィードバックさせることが効果的であったかを検証する。

(2) 分析内容

両群の事前と検証時に、会話のやり取りの回数を比較する。制限時間は3分間である。1年生で習得する語彙数が限られたものであることを踏まえ、単語等に関して一部日本語が含まれることも許容範囲とする。また、語順間違いは問わない。

(3) 事前調査について

「話す」活動において、両群の差を確かめるため、一問一答形式Q&A 指導とフィードバックの工夫後に、3分間、会話のやり取りの回数を数える事前調査を行った。図3は両群を比較したものである。t検定を行った結果、有意差は認められなかった。このことから両群の一問一答形式Q&A 指導とフィードバックの工夫に差はないと分かる。

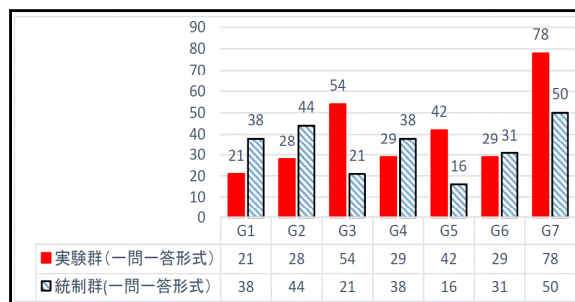


図3 事前調査における両群の会話のやり取りの回数の比較

4 検証

(1) 一問三答形式Q&A 指導とフィードバックの工夫を行った時の比較

会話を継続し発展させることができるかどうかを確かめるため、手立てを講じた実験群と手立てを講じていない統制群とで検証を行った。図4は両群を比較したものである。異なる質問文や依頼を表す肯定文を与え、会話のやり取りの回数を数えた。G4以外はやり取りの回数が増加した。しかし、G4は自分のことを説明するのに時間がかかり、やり取りの回数は少なかった。t検定を行った結果、5%水準で有意差が認められ ($t(50) = 3.32, p < .05$)、一問三答形式Q&A 指導とフィードバックの工夫を行った実験群の方が高かった。

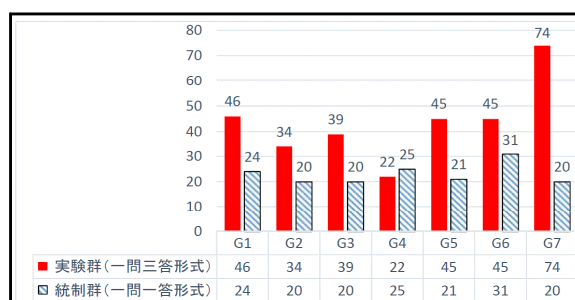


図4 検証における両群の会話のやり取りの回数の比較

(2) 生徒の会話を分析する基準

ICレコーダーで録音した生徒の会話を書き起こし、会話のやり取りの回数を数えて分析する。ここでは一問一答形式Q&A での生徒の会話を例に挙げる。

- A: Please tell me about your hobby.
- B: My hobby is playing games.

A: What kind of games do you like?
 B: I like Pokemon.
 A: Oh, I like Mario.
 B: Me, too.

質問に対して内容を正しく理解して、応答しているものをやり取りの回数1とする。さらに、AはOh, I like Mario. と前の話に反応している。このような発言は質問ではないが、自分の情報を相手に伝えているため、Bの発言に対する応答とし、この会話はやり取りの回数4とする。

(3) フィードバックの工夫例

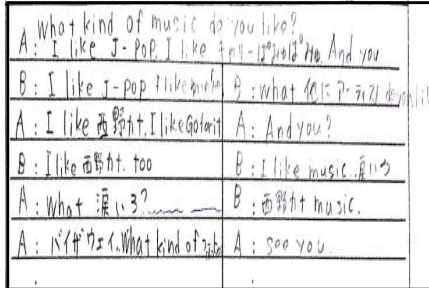


図5 録音記録とリスニングメモを基に、生徒が書き起こした文

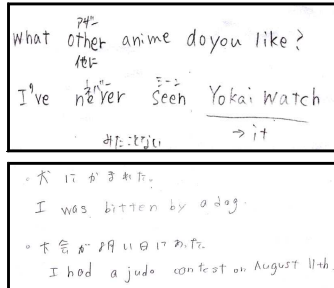


図6 生徒が表現したい語句や文を挙げ、ALTに尋ねた例①

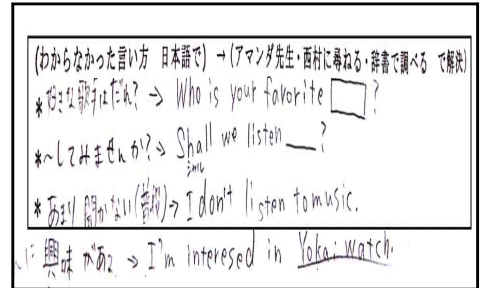


図7 生徒が表現したい語句や文を挙げ、ALTに尋ねた例②

これまでの会話例 Q: Do you like anime? という質問から始まる会話から

例1) 好きなアニメの話で共通点があり、自分の情報を多く入れた会話。

A: Do you like anime?
 B: ①Yes, I do. ②I like Yokai Watch. ③And you?
 ボイント1 *質問に対して3文(3つの情報)で答えている。
 ボイント2 *And you? と相手の情報を聞き出す工夫をしている。

A: ①I like Tennis no Ojisama. ②I like Echizen Ryoma. ③By the way, do you like tennis?
 *質問に対して3文(3つの情報)で答えている。
 ①自分の情報1つ目(好きなアニメタイトル) ②自分の情報2つ目(好きなキャラ)
 ③テニスの王子様つながりでテニスが好きか? を聞いた質問を投げかけた。

B: ①Yes, I do. ②I like tennis. ③And you? *質問に対して3文(3つの情報)で答えている。

A: ①I like tennis, too. ②I don't like to volley. *質問に対して2文(2つの情報)で答えている。
 ①自分の情報1つ目(自分もテニスが好きだ) ②自分の情報2つ目(でもボレーは好きじゃない)

B: ①I don't like to smash. ②疲れちゃうから... Because it made me tired.
 ボイント5 *質問ではない、相手の情報から自分の情報を相手に伝えている。
 この後、会話は終了しました。一度話題は変わりましたが、なかなかいい流れです。では...
 この後、Aさんは、何と話せば話が続けて、内容を深めることができますでしょうか?

図8 生徒の成功例からクラス全体に考えさせる掲示

A: ①私はゲームはやらないよ。
 [play / I / video / don't / games / . /]

I don't play video games.
 ②持っていないし。[don't / any / have / games / I / . /]

I don't have any games.
 ③あなたはどのゲームを持っているの?
 [you / games / what / do / have / ? /]

What do you have games?
 B: ①僕はWiiとPS2を持っているよ。
 [I / Wii and PS2 / have / . /]

What games do you have? I have Wii and PS2
 ②3DSも2つ持っているし、PSPも持ってる。
 I also have two 3DS and PSP.
 ③あなたは3DSを持ってる?
 [have / do / you / 3DS / ? /]

Do you have 3DS?

図9 正しい語順を意識させるワークシート

V 研究のまとめ

会話を継続し発展させる能力を高めるために、ALTと協同での一問三答形式Q&A指導とフィードバックの工夫を行った結果、即興的な会話のやり取りの回数が増加した。このことから、語彙数が少ない1年生であっても、紋切り型の応答を改善することができたと考えられる。したがって、一問三答形式Q&A指導をし、他のペアが書き取ったリスニングメモと録音記録を用いてフィードバックをすることで、会話を継続し発展させていくことができると分かる。

VI 本研究における課題

本研究では、ICレコーダーを使い、生徒の会話を記録している。生徒はICレコーダーを口元に持って話すため、日常の会話で使われるであろうジェスチャーがほとんどない状態で行われた。ジェスチャーなど非言語表現を加えた場合、更に会話を継続し発展させることができるのか否かを調べる必要がある。

<引用文献・URL >

- 1 文部科学省 2003 「英語が使える日本人」の育成のための行動計画
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/015/siryu/04042301/011/002.htm
(2014. 10. 21)
- 2 文部科学省 2002 「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想の策定について
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/020/sesaku/020702.htm(2014. 10. 21)
- 3 文部科学省 2008 『中学校学習指導要領解説 外国語編(平成20年9月)』, p. 14
- 4 太田 洋 2003 『「英語で」会話を楽しむ中学生 会話の継続を実現するKCG メソッド』, p. 11,
p. 18, pp. 20-22, 明治図書
- 5 松沢 伸二 2014 「帯活動ーその正体と魅力」『TEACHING ENGLISH NOW VOL. 27 SPRING2014』,
pp. 2-3, 三省堂
- 6 太田 洋 2012 「帯活動の意味 Teaching≠learningだからこそ」『英語教育 Vol. 61 No. 2』,
p. 10, 大修館書店

<参考文献>

- 道面和枝 2009 『中二で楽しく会話が続く！「2分間チャット」指導の基礎・基本』 明治図書